

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。
ここに当社グループ第90期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期は、当社グループの強みである電池技術、回路技術およびパワーエレクトロニクス技術を結集させたバッテリーソリューションを電源バックアップ、車載アクセサリといった従来の市場と今後拡大が期待されるIoT、モビリティ、社会インフラといった市場・顧客に向けた拡販に努めました。また、当社の新規戦略製品であり、かつ次世代電池として社会から注目いただいているSMD対応小型全固体電池を2018年12月よりサンプル提供を開始するとともに、さらなる高容量化と実用化に向けた取り組みを推し進めました。一方で、電子事業につきましては、社会からの要請の変化と進化に応じた選択と集中に努めてまいりました。

当期の経営成績につきましては、売上高は前期に比べ10億16百万円減の721億13百万円と減収となりましたが、前期に引き続き費用の削減などに努めたことにより営業利益は前期に比べ1億57百万円増の8億23百万円、経常利益は連結子会社SUZHOU FDK CO., LTD.の操業停止に伴う固定資産除売却損などを含む営業外費用を計上しましたが、費用の削減に為替の影響も加わり、前期に比べ6億40百万円増の7億18百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純損失は、前述の連結子会社の操業停止に伴う会社清算に向けた子会社整理損などの特別損失を計上したことにより2億90百万円（前期は6億30百万円の親会社株主に帰属する当期純損失）となりました。当期の業績の詳細につきましては、当報告書の2ページから6ページをご覧ください。

配当につきましては、未だ欠損状態ですので、誠に遺憾ではございますが見送らせていただきたいと思います。株主の皆様には誠に申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。

2019年度以降につきましては、当社グループは“電気エネルギーを効率的に利用する技術でグローバルに社会に貢献”する「スマートエナジーマネージャー」として、SMD対応小型全固体電池や水素／空気二次電池をはじめとする新規開発電池に戦略的に投資し、早期の市場投入を計画してまいります。電子事業につきましては、2019年4月26日に当社電子事業の一部であるフェライト、コイルデバイス、積層パワーインダクタ、セラミックス部品（圧電部品）の4事業を会社分割（吸収分割）により新設会社に承継させ、当該新設会社の全株式を長野日本無線株式会社へ譲渡する契約を締結いたしました。当社グループとしましては、引き続き市場で強みを発揮するバッテリーソリューションを軸においた事業展開を図り、さらなる収益力の改善に努め、企業価値の向上に繋げてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き当社グループをご支援賜りますようお願い申し上げます。

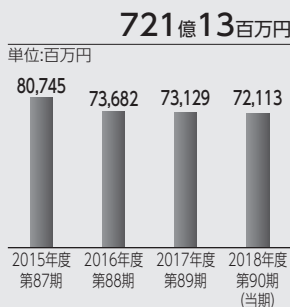


代表取締役社長
大橋 洋一

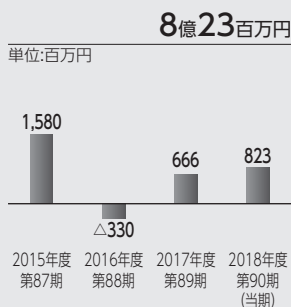
2019年6月

連結決算ハイライト

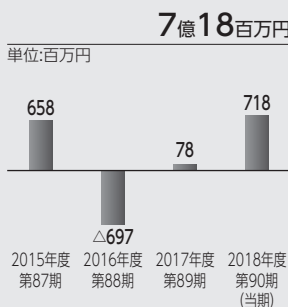
売上高



営業利益又は営業損失(△)



経常利益又は経常損失(△)



親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)

